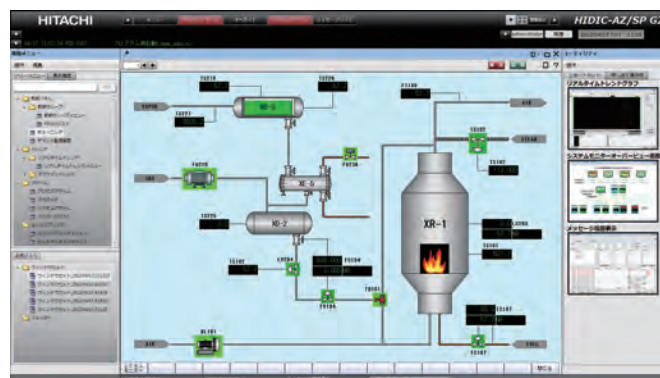


■ 日立製作所が、未来の製造プラントを担う新しいデジタル統合監視制御システム「HIDIC-AZシリーズ」に、Microsoft .NET ベースの SL-GMS を採用

米 SL 社のダイナミック GUI/HMI とシステム専用のカスタム・エディタとして組み込み再販

2013年4月3日 プレス・リリースより:

SL ジャパンは、株式会社日立製作所インフラシステム社システム統括事業部(以下、日立)の産業向けのデジタル統合監視制御システム「HIDIC-AZシリーズ」の新製品「HIDIC-AZ/SP G2」に、SL-GMS Developer ならびに Custom Editor for .NET が組み込まれたことを、発表しました。これまで、同社の上下水道監視制御システム「AQUAMAXシリーズ」の「AQUAMAX-AZ/SP」や「AQUAMAX-web」で採用されてきた Microsoft .NET ベースの SL-GMS が、今回新たに「HIDIC-AZシリーズ」に展開されたものです。



「HIDIC-AZ/SP G2」は、40年以上のプラント監視制御システムの構築・運用で培われてきた日立の経験と実績、信頼を、高い技術力と豊かな想像力をもって、これからの製造プラントを支え続ける力にするために開発された新製品です。プラント全体の安定稼働を支えるとともに、製造ノウハウの継承、グローバル化、スピード経営など、さまざまなニーズに対応し、次世代に向けたスマート生産環境を展開することで、新たな価値を提供し続けます。このミッション・クリティカルな新製品の速やかな市場投入で、SL-GMS Developer ならびに Custom Editor for .NET が一役を担いました。

製造プラントの運転状況を表示するメインの画面領域の周りにメニュー、ツールバー、ユーティリティ領域を設け、ショートカット、付箋紙、クリップボードや表示履歴などの豊富な機能を備えたグラフィックなオペレータ画面は、監視スタイルに合わせて多彩な操作環境を柔軟に用意できる SL-GMS Developer for .NET で開発されています。また、運転時の変化やパターンの履歴を遡ってグラフィック画面にプレイバック表示できるなど、便利で直観的な監視・操作環境を実現し、オペレータの負担を減らします。さらに、シミュレーションや監視画面の定義と保守などのエンジニアリングの効率化では、SL-GMS Custom Editor for .NET によって開発された、HIDIC-AZ/SP G2 専用の編集環境がサポートします。

★プレス・リリース全文: http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2013/slj_press_130403.shtml

Microsoft Visual Studio 2012 を使った、SL-GMS Developer for .NET アプリケーションの開発

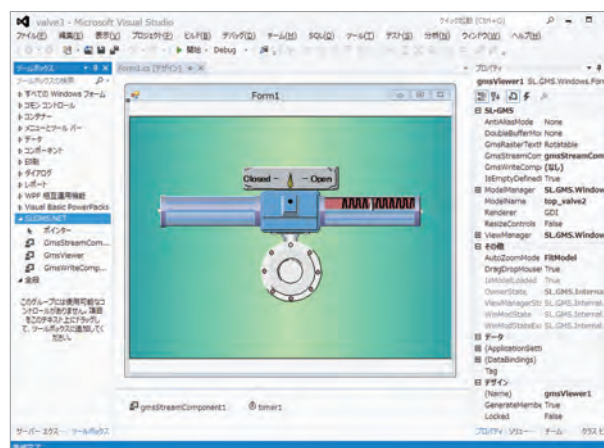
【新デモ・ビデオ】 http://www.sl-j.co.jp/demovideo/dotnet/dotNET_VS2012/dotNET_VS2012.html (4分55秒)

SL-GMS Developer for .NET と Custom Editor for .NET は、Microsoft Visual Studio による開発を目的に設計された、監視制御システム専門のツールです。

リアルタイムなライブ・データで動的に振る舞うグラフィカル・モデルは、SL-GMS Draw エディタで対話的に作成します。エディタ内では、何十種類もの動的属性を指定することができ、アプリケーションから独立してすぐにその動きをプレビューして確認できます。

そして、Visual Studio のツールバーから SL-GMS のビューワー・コントロールを選択してフォームに配置し、さまざまな属性を指定。アプリケーション固有のカスタム・エディタを作成したい場合には、SL-GMS のエディタ・コントロールを選択します。データへの接続、データ更新やユーザ・インタラクションなどのイベントは、アプリケーションのコードで処理します。

Visual Studio で開発した同じ SL-GMS の Windows フォーム・アプリケーションは、デスクトップまたは Web で運用することができます。



Microsoft Visual Studio 2012 における
SL-GMS の .NET ビューワー・コントロール

年間2億5千万件の国際貨物輸送のSLAコンプライアンス対応で、SL社のRTViewを採用

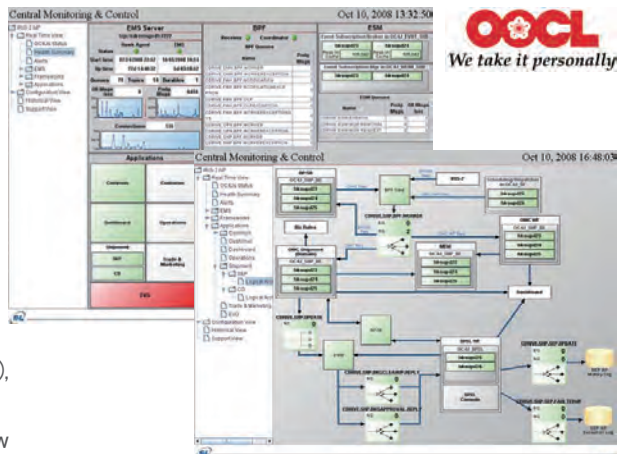
OOCL社は、日本を含む60ヶ国以上における270以上のオフィスを構えている、香港をベースにした世界トップ・クラスの国際的なコンテナ輸送、ロジスティクス、ターミナルを運営する企業です。

OOCL社では、貨物輸送サービスにおけるSLAコンプライアンス対応で、同社の貨物輸送ライフサイクル管理全社システムを構成している、世界中に分散した多数のカスタム・アプリケーションとコンポーネントすべての性能と可用性を、RTViewによってわずか4人月で一元可視化した中央監視システムを実現し、運用されています。

- すべてのサーバ、データベース、インフラに至って、輸送サービスのビジネス・プロセスに沿ったエンドツーエンドの中央監視とロールベース(職務役割別)監視
- OC4J(J2EEコンテナ)、Microsoft C# .NETプラットフォーム、TIBCO EMS (JMS)、BusinessWorks、Hawk アプリケーション、独自のカスタム・アプリケーション
- JSPウェブ・ページ、カスタム・サブレット、UNIXシェル・スクリプト、HP OpenViewなどでバラバラに実装されていた監視機能を集約

本システムの導入により、性能問題の「平均診断時間(MTTD)」を1時間以上からわずか2分間に短縮、各担当者が一日当たり平均4時間かけて各サーバにある詳細のログファイルを見ていた監視時間をわずか10分間に短縮されました。さらに、システム全体の健全性と輸送サービスへの影響への可視性を高めることで、問題を早期に検知して容量計画などのより積極的な対応を可能にしました。

★ケーススタディ(PDF)ダウンロード：http://www.sl-j.co.jp/products/resources/pdfs/users_oocl.pdf

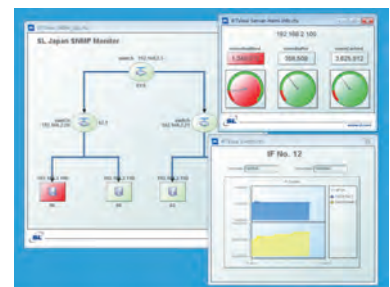


OOCL全社システムの健全性をサマリ表示する中央監視画面(上)と、貨物輸送サービスのビジネス・プロセスに沿った監視画面(下)

RTView 新バージョン6.2リリース

RTViewの最新リリース・バージョン6.2では、RTViewのさまざまな分野でさらなる性能向上が図られています。

- **データ・サーバ:** 高可用性デプロイメントでのバックアップ・データサーバにアクティブ・スタンバイ・モードが加わり、これによってフェイルオーバー時にデータを喪失することなく処理を続行。また、大規模なテーブルでのデータの変化を察知する処理が向上し、クライアント側にも寄与します。
- **ディスプレイ・サーバ:** 高可用性デプロイメントでディスプレイ・サブレットの自動フェイルオーバー機能が加わり、障害時にもプライマリ・ディスプレイ・サーバとバックアップ・ディスプレイ・サーバに自動的に切り替え接続し、シンクライアントで間断なく監視を続行できます。
- **インメモリ・キャッシュ:** キャッシュ内のデータ変化を即座に通知するかどうかの設定が行えるようになり、キャッシュを利用するデータ・サーバの性能向上につながります。
- **JMX:** JMX接続をマルチスレッド化する機能により、一部の応答が遅いサーバがアプリケーション全体の性能に大きな影響を与えないようにしました。



その他、新V6.2ではSNMPデータ・アダプタなどで機能強化されています。

★リリース・ノート(日本語)を、ユーザ様向けのドキュメンテーション・サイトにアップしております：

http://www.sl-j.co.jp/support/user_info.shtml

Application Performance 2013 拡大版セミナー開催のご案内



**拡大版セミナー「ビジネスやサービスが見える一元監視システムをカスタム構築
～ ログ、SNMP、運用管理ツールなど既存の性能データのリアルタイムな可視化と監視 ～**

★2013年11月20日(水) 15:00～17:00 [無料・事前登録制]
@スタジアムプレイス青山(東京・外苑前駅徒歩2分)

セミナー・サイト：http://www.sl-j.co.jp/newsevents/AP2013_session.shtml (ホームページからも入れます。)

去る9月18日に御茶ノ水 ソラシティ カンファレンスセンターで開催された
Application Performance 2013 セッション内容の『拡大版セミナー』です。

★セミナーのお申し込みは、電子メール seminar@sl-j.co.jp またはセミナー・サイトから承っております。



RTViewのポイント&クリック操作のビルダー

Real-Time Visibility



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

年3回発行 2013年9月27日発行 通巻46号

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。